

発 言 通 告 書

発言者氏名	高橋英昭
発言の会議	平成31年 2月27日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市長、上下水道局長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 行政改革及び市職員について

- (1) 職員の意識改革は必要だが、改革が進む前であっても考え方、思いについて、市長と職員との間に溝があってはならない。そのためには、職員に対しきめ細やかに、かつ大きな心で接する必要があると思うが、市長の考えを伺う。
- (2) 市内経済の活性化や災害時の初期対応という面からも重要な市職員の市内居住の推進について
 - ア 現在、職員の市外居住率は何%で何人いるのか。あわせて、管理職職員・新規採用職員、それぞれについても伺う。
 - イ 職員の市外居住率の現状を、市長として率直にどう受けとめるか。
 - ウ 市内居住推進のために、市外居住者の住宅手当を減額し、その分、市内居住者への住宅手当にインセンティブをつけるぐらいの政策誘導が必要ではないか。
 - エ 若手・新規採用職員を中心に、谷戸地域での地域貢献インセンティブとして住宅加算金を導入してはいかがか。

- (3) 全ての自治体で導入に向け検討が進められている会計年度任用職員制度について
- ア 現在の非常勤職員と会計年度任用職員とでは、基本的にどのような点で異なるのか。
 - イ 会計年度任用職員の労働条件を、どのように考えているのか。まだ検討中であれば、その基本的な考え方を伺う。
- (4) 災害時の行政の対応について
- ア 行政機関での防災訓練の内容を把握されているのか。また、把握されているのであれば、現状の訓練で十分だと考えるか。
 - イ 非常勤職員でも災害対応できるよう、会計年度任用職員制度への移行に合わせて、契約条項を変更してはいかがか。
- (5) 事務事業等の総点検について
- ア 単年度会計、単年度決算で行政は回っているのだから、事務事業等の総点検は毎年実施するべきではないのか。
 - イ 毎年できない理由の一つに業務負荷の増加を挙げているが、振り返りをきちんと行っているのであれば、特に問題はないはずだ。それでもできない理由は何か。
- (6) 日々の事務業務の効率化のため、県も実証実験を終え、本格導入を検討しているRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を本市も導入してはいかがか。
- (7) ファシリティマネジメントについて
- ア 公共施設を無駄なく使い、施設の複合化などをスムーズに進めるためにも、現在それぞれの部局が管理する施設を、管理者と使用者に分けて一元的に管理すべきだと考えるが、いかがか。
 - イ 消防局が廃止する「あんしんかん」を、市民対応などを行う庁内会議室として使う方針が示されたが、方針案を聞いた段階で、市長は率直にどのように感じられたか。
 - ウ 「あんしんかん」も施設の管理者と使用者が別であれば、もっと違う使い方ができたのではないか。その決定に至るプロセスを伺う。

エ ゼロから2歳児の子どものいる世帯への子育て支援サービスは手薄になりがちだ。子育て支援に力を入れる市長にとっても、「愛らんど」は「あんしんかん」に移ってもらうのが望ましい使われ方ではないか。

オ 学校という公共施設においても、管理者と使用者に分けることにより、責任区分が明確になる。施設管理を市長部局が担い、使用者の教職員と教育委員会は教育という一点に注力してもらってはどうか。市長、教育長に伺う。

カ 他の公共施設に比べ、学校の保守管理は後手に回っていると感じるが、市長、教育長の認識を伺う。

キ 部局を横断して小破修繕を担当するチームを設け、施設の維持管理コストの削減のために活用してはいかがか。

ク 学校施設の中で最も稼働率が悪く、もったいないと思われるのが学校プールだ。学校プールを廃止して、授業もでき、競泳大会も誘致できる50メートルの温水プールをつくってはいかがか。市長、教育長に伺う。

(8) 公共施設の利用料金の受益者負担について

ア 受益者負担は必要だと考えるが、最低限の整備は必要だ。始まる前に、制度面だけでなく、施設の備品等、中身の整備もするべきではないか。

イ 利用料金を取るだけでなく、取ってなお利用率を上げることが必要だ。簡単なりニューアルに合わせ、しっかりと市民への告知を行えば、今まで以上に利用率は高まると考えるが、いかがか。

(9) 三浦半島4市1町での広域行政について

ア 市長は広域連携について、どのような考えを持つのか。

イ 一度は物別れに終わっているが、今後、ごみ処理や消防の分野で再び広域化への打診があったときには、再検討する考えはあるか。

ウ 本市でもセンター方式の中学校完全給食が始まるが、食材調達のスケールメリットなどを生かすためにも、将来的に給食の

広域化を検討されてはいかがか。

- (10) 新たに地域生活相談窓口が設置されるが、この事業は、市民の困りごとにすぐに応える、松戸市の「すぐやる課」のイメージなのか、地域の課題をサポートし地域自治を目指す、熊本市の「地域担当職員」のイメージなのか、またどちらでもないのか、考えを伺う。

2 地域経済の活性化について

- (1) 10月から消費税が増税される予定だが、経済と福祉という車の両輪を回そうとしている中で、経済の停滞に足をとられてしまう事態は避けなければならない。ついては、地域通貨を使った「Buy Yokosuka」運動で市独自の景気刺激策を検討してはいかがか。

- (2) 商店街の発展のため、商店街同士を統合し、スケールメリットを生かして発展することを仕掛けてみてはいかがか。

- (3) 観光事業の拡充について

ア 本市には、集客力のある観光拠点がある。しかし、横須賀美術館は、そのポテンシャルが十二分に発揮できていないと感じる。美術館の活用方法について、市長、教育長の考えを伺う。

イ 横須賀美術館は、教育委員会の所管ではなく、市長部局に所管がえした方が、そのポテンシャルを存分に生かせるのではないか。市長、教育長の考えを伺う。

ウ 横須賀美術館の裏手にある「山の広場」のような隠れた名所を市民から募集・発掘し、宣伝・活用を検討すべきと考えるが、いかがか。

エ 「山の広場」の活用方法として、ドッグランを整備してはいかがか。

- (4) 田浦青少年自然の家キャンプ場の規制を緩和して、ソレイユの丘に負けないようなキャンプの名所を目指してみてはいかがか。

- (5) 第二海堡の上陸ツアーに期待しているが、自然条件により上陸できないことも多い。原因の一つである、栈橋の整備を関係機関に要請されてはいかがか。

3 福祉・医療について

(1) 介護施設の現状について

ア 最近では特別養護老人ホーム（特養）よりも、簡単に入れる有料老人ホームが選ばれているという。このような状況の変化について、実態と背景をどのように把握されているか。

イ 本市の高齢者保健福祉計画にのっとってつくられた施設には、毎年、施設の建設にかかわる補助金が出されている。公が必要と認めたからこそ、つくられている施設が入居者の不足や、介護人材の不足により経営難に陥るようなことはあってはならない。今後の見通しを伺う。

(2) 地域包括支援センターについて

ア 地域包括支援センターの重要な役割の一つが相談・支援機能であり、地域の中心に配置することが必要だ。そこで、行政センターや学校などの公共施設の一部を無償で貸し出し、地域包括支援センターを配置してはどうか。

イ 地域包括支援センターの委託事業者の多くは、委託料だけでの運営は厳しいと聞く。現状を考慮し、経費や業務に見合った委託料をしっかりと確保すべきではないか。

(3) 障害者雇用について

ア 市は雇用率算定の誤りから法定雇用率を達成していないことがわかった。次年度は法定雇用率を達成できるのか。

イ 二度とこのような事態にならないよう、今後は法定雇用率を大きく上回る、挑戦的な目標を打ち立ててはいかがか。

ウ 障害者ワークステーションにより、知的障害者・精神障害者の雇用が始まることは大きな一歩だ。今後、さらに募集枠を拡大すべきと考えるがいかがか。

エ 外郭団体に加え、市の仕事を請け負う事業者にも法定雇用率の遵守を求める必要がある。外郭団体については、平成30年6月時点で1団体が法定雇用率を満たせていない。どのような指導をし、いつまでに法を遵守させるのか。

オ 指定管理者については、平成30年6月時点で6団体が法定雇用率を満たせていない。どのような働きかけをするのか。

(4) 市立2病院体制について

ア 建てかえ後の新病院では、病床数450床を計画している。医師確保の面や、回復期病床の必要性が高まることから、500床規模は必要だと考える。今回の決断に至った判断根拠を伺う。

イ うわまち病院の移転先4候補地の比較表を見ると、神明公園は、道路整備の必要性がないと判断されているが、実際には救急車両が遅滞なく通行できるようにするなど、さまざまな対処が必要ではないのか。道路状況への対応策をどのように考えるか。

ウ 移転先候補地の比較表によると、神明公園は活断層と津波の2つの災害リスクがあるが、災害拠点病院へと機能強化するに当たり、どのような対策を想定しているのか。

エ 効率のよい医療を提供する病院を維持し続けるために、ローコストで建設し30年ごとの建てかえを検討されてはいかがか。

オ 公益社団法人地域医療振興協会が、市立2病院の指定管理を行うようになり9年が経過した。同協会に対し不満があるわけではないが、時期的に病院の指定管理者のあり方を検証する必要があるのではないか。

カ 2病院とも同じ指定管理者で運営することのメリットとデメリットについて、所見を伺う。

キ 市民病院のさらなる環境の充実のためにも、コンビニエンスストアの誘致が必要だと考えるがいかがか。

4 子育て支援と教育について

- (1) 単純計算でも、あと二、三年で本市の出生数は 2,000 人を割り込む可能性が高い。もはや合計特殊出生率などといった変動幅のある曖昧な指標ではなく、年間出生数を最重要の指標（K P I）に設定し、あらゆる施策を総動員して取り組む必要があると考えるがいかがか。
- (2) 幼児教育・保育の段階的無償化を進める大前提に、待機児童ゼロがある。ことし 4 月の段階での待機児童ゼロは達成できるのか。
- (3) 同無償化により入所を希望する方の増加が見込まれる中での受け皿の確保について
 - ア できるだけ幼稚園に誘導し、必ずしも保育園・こども園でなくとも応えられるニーズを吸収することで待機児童解消につながるかと考えるがいかがか。
 - イ 本市として力を入れるべきは、潜在的保育士の掘り起こしによる人材確保だ。そのためにはワークシェアなどの柔軟な働き方を可能とする環境整備が必要だが、本市の取り組み状況と、今後の方策を伺う。
- (4) 職員厚生会館をリノベーションして（仮称）中央こども園を整備することについて
 - ア 職員厚生会館の機能を勤労福祉会館に移転するとあるが、職員厚生会館では、かなりの頻度で職員研修が開催されているのに加え、健康診断等の厚生施設としての機能もある。それらの機能を全てきちんと移し、機能を確保することは可能なのか。
 - イ 当初の計画より 1,400 平方メートルも大きな面積をどのように活用する予定なのか。
- (5) 公立保育園再編計画が策定されたときと、現在の状況は、幼児教育・保育の無償化やこども園建設のおくれなどにより、大きく変わっている。ついては、公立保育園再編計画そのものをゼロベースで再考してはいかがか。
- (6) 放課後の子どもたちの居場所について
 - ア 市長の考える放課後の子どもたちのあり方を示されたい。

イ 放課後子ども教室は、今後メニューがふえることがあっても、選ぶも選ばぬも、子どもたちの自由となっているか。

ウ 放課後子ども教室で宿題をやらせているが、家庭学習の習慣づけ、つまりは自分自身で学習することを身につけるために宿題はあると考える。教育長が考える宿題の狙いを伺う。

エ 子どもたちの放課後の過ごし方や、宿題の本来の目的から、放課後子ども教室で宿題をやらせることはやめ、伸び伸びと過ごさせてはいかがか。市長に所見を伺う。

オ 4月から公設学童クラブが逸見小学校で始まることにより、残る学童クラブ空白学区は2学区となった。この2つの学区の今後の予定を伺う。

カ 民間委託で運営する公設学童クラブで、民設民営の学童クラブとのコスト構造の比較・検証は本当にできるのか。

キ 同比較・検証ができるとすれば、その後どのようなアクションをとるのか。

ク 学童クラブの利用料の低減のため、早急に全児童対策と学童クラブを一体的に運営することを検討するべきだ。まずは、公設学童クラブを開設する逸見小学校で試行し、そのノウハウを持って民間学童クラブにも一体的な運営を打診してはいかがか。

(7) 学校教育の充実について

ア 教職員の働き方改革についての取り組みが報告され「勤務時間の記録」が盛り込まれているが、ソフトウェアシステムとして確立されている、パソコンによる勤怠管理を導入することを検討されてはいかがか。教育長に伺う。

イ 「学校閉庁日の設定」については、3日間とするそうだが、いずれ広げていくのか、これ以上の設定ができない理由があるのか、その設定根拠と今後に向けた考えを教育長に伺う。

ウ 「部活動指導員の配置・運用」については、3名からスタートするとあるが、少な過ぎる。この3名をどのような狙いを持って、どこに配置する予定か。教育長に伺う。

エ 各校に必要な数の部活動指導員が配置されるのは何年後ぐらいを見込んでいるのか。教育長に伺う。

5 都市基盤の整備とまちづくりについて

- (1) 災害後に体調を崩すなどして死に至った災害関連死が問題になっている。避難所生活において特に重要なのが、プライベート空間の確保と十分な数のトイレだと考える。大規模な避難所に、間仕切りになるブルーシートの備蓄と貯留型マンホールトイレの設置を検討されてはいかがか。
- (2) 街区公園は、数多くのルールに縛られている。もっと使われる公園を目指し、目的に合わせた機能に特化した公園づくりをワークショップ形式で市民とつくってみてはいかがか。
- (3) 大津運動公園の活用について
 - ア ラグビー場と野球場は、砂ぼこりや騒音の問題から、土日・祝日しか使用できない。駅も近く非常によい立地ながら、ある意味、迷惑施設と受け取られ活用できていない現状をどのように考えるか。
 - イ 稼働率を上げるために、グラウンドを人工芝化するか、50メートルの室内プールへ転用するかを検討してはいかがか。この提案を、どう受けとめるか。
- (4) JR久里浜駅周辺の再開発について
 - ア JR久里浜駅と京急久里浜駅の交通結接点の強化は欠かせない。駅前再開発に合わせ、両駅をつなぐ連絡通路を設けてはいかがか。
 - イ 八幡第1・第2踏切の撤去の研究を始めるそうだが、これまでの経緯からJR側が費用を負担することは考えにくく、本市の費用負担も視野に入れて検討すべきだと考えるがいかがか。
- (5) 市の水道・下水道の料金体系は、基本水量が多過ぎる、企業など大口の顧客に厳し過ぎるという2つの課題がある。ついては、次回の水道・下水道の料金改訂時にあわせ、このような現状を見直してはいかがか。市長、上下水道局長の見解を伺う。

(6) フェアトレードタウンの認定について

ア フェアトレード認証製品を購入することで発展途上国の生産者をサポートする活動に対する考えを伺う。

イ 本市でも一部フェアトレード活動に取り組んでいるが、今後フェアトレードタウンの認定に向け、さらに取り組みの強化を図ってはいかがか。

(7) 谷戸の不便な場所でも人気のお店がある。こうした事例をPRし、事業者を誘致することにより、本市への来訪者をふやすことができるかと考えるが、所見を伺う。